

いつもありがとうございます。

W10 青果発注書をお送り致しました。

御注文のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

・鹿児島県 指宿 に行ってきました



そら豆の畑です。

この地域は初めてでしたが、今の時期まわりは豆類一色で、他の作物は白菜・キャベツ・レタスでした。

想像以上に、しっかりした産地で、しかも面白い産地でした。

具体的には、先ず豆類のお話から。



私は市場で流通しているスナップエンドウは未熟だと思っています。

確かに、未熟だと食感はバキッとするかも知れません。

でも、キュウリ同様未熟故の青臭さが鼻についてしまい、味がうすいと思います。

実エンドウほどではありませんが、ちょっと鞘に豆のふくらみが出るかなあという頃まで成らせておくと、味は全く変わります。

今年、早速その考えに賛同してトライしてくれることになりました。

成り物だけではなく、青果の味と栄養の決め手の重要なポイントに、

完熟という概念があります。

一時期、『完熟』という言葉が独り歩きした事がありましたが、動物も植物も成長期から成熟期に移行します。

この成熟期のピークが『完熟』で、その時期を過ぎると老化が始まります。

私は見栄えと価格だけの価値基準の青果流通に一石投じたいと考えてきました。

それは**食べ物だから、食べる人の身体に健康という影響を及ぼすことが最大の目的で、本質**だと思うからです。

同様に、白菜・キャベツも大きい方が私は美味しいと信念を持っています。

この肥料がひとつのカギです。

で、この農園はその思想を持っています。



今後、その思想が青果流通に反映できるように、互いに努力をすることになりました。画像の彼ではありませんが、この地で早出しの『恋するマロン』の栽培依頼をしました。私自身、苗を作り、定植して、その後毎日畑に通い恋するマロンの世話をしていましたので、

この苗を見るととても懐かしく、苦しかったことを思い出しました。

収穫の目標時期は、5月中旬で、出荷の目標時期は5月の25日です。

後に、今年の弊社南瓜の出荷サイクルを書きましたが、

少しずつ、恋するマロンの出荷時期を延ばしていきたいと考えています。

ただ、この品種は初めての農家なので、指導はしますが、果たしてその通り上手いくかどうか若干心配です。

ちなみにこの苗は、私のお願いで恋するマロンを栽培してくれている農家が、代理で育苗してくれました。

この指宿という地域が、弊社の味方になってくれれば、取り扱いのそれぞれの期間が広がりそうです。

是非、楽しみにしておいてください。

・沖永良部島 上村ファームの特裁新じゃが



毎年気を揉む産地ですが、今年も先週来の雨続きで収穫が遅れてしまいました。

画像の訪問は1月23日で、約ひと月前です。

この日は、最高気温が25度の夏日でした。

上村優介君曰く『この日を境に雨が続く』で、私が『どうして?』と聞くと、『北風が南風に代わって暖かくなり、その風が雨を運んできます』と応えてくれました。

八百屋以上に農家は天気商売だから、天気に詳しくなるのですね。

この産地はいつも3時間程度の滞留時間で島から離れます。

互いに慣れっこで、ほとんどルーチン化してきたように思います。

今シーズンから、デジマの種芋が手に入らない状況になり、品種がニシユタカになると聞いていました。

これは昨シーズンに話した事ですが、どうも島の種子屋さんのルートだと入らなくなったということだと思います。

じゃが芋の種芋農家は殆どが北海道です。

昨今のじゃが芋のバラエティブームで、品種が多くなりすぎてそのルートのひとは絞る事にしたんだと思います。

やり玉に挙げられたのが、デジマだったということだと思います。

その時に、ニシユタカにするかキタアカリにするかとの判断がありましたが、

南でキタアカリが適合しない可能性があるので、無難にニシユタカでとの結論を出しました。

尚、今まで出荷されていた伊唐島の高橋さんの新じゃがは端境期に入り、

再開は、3月中旬見込みです。

また、メークインはも3月中旬に出荷開始見込みです。

それでは、今週も御注文の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

有限会社アルファー

吉田清一郎